

第7章 幕藩体制の展開 1, 幕政の安定 c.正徳の政治

[1 正徳]の治=[2 新井白石](侍講)の政治 6代[3 家宣]・7代家継のもと
(1709~16) 側用人=間部詮房 幼少

- 1)基調 4 将軍家の権威の拡大をめざす。伝統的経済政策への復帰
- 2)[5 朝廷]との関係改善…[6 閑院宮]家の創設、皇女との将軍の婚姻をめざすなど
- 3)[7 朝鮮通信使]の待遇を簡素化 将軍の名称を「大君」から「国王」に
- 4)貨幣の品位をもとに復する→いっそうの経済混乱へ
- 5)1715 [8 海舶互市新例]=貿易額を制限し、[9 金・銀]流出を抑える

2. 経済の発展 a. 生産力の向上

近世の前期、道具や技術の進歩により、河川敷や[10 海岸部]などの大規模な耕地化が可能となり、幕府や諸藩も[11 新田開発]に積極的に取り組んだため、全国の耕地は飛躍的に広がった。17世紀の末になると、有力商人が資金を投下して開発する[12 町人請負新田]が各地にみられた。

また農民たちは、小規模な家族労働を基礎に、せまい耕地に人力を[13 集約]的に投下して生産力を伸ばした。農具の開発が進み、商品作物生産が発達したところでは、[14 干鰯]・油粕など[15 金肥]が普及した。新しい栽培技術や農業知識を説く[16 農書]も広く読まれた。

農民は、生産の中心である[17 米]の多くは年貢として取り立てられ、[18 自給自足]の貧しい暮らしを強いられたが、農業の生産力が急速に高まると、[19 余剰米]を商品としたり、桑・麻・綿・油菜・楮・野菜・タバコ・茶・果物などを[20 商品作物]として生産・販売し[21 貨幣]を得る機会が増大、多くの村々はしだいに[22 商品流通]にまき込まれるようになった。

- ①農業生産の進展
- 1)初期…幕府・藩など[23 大規模開発]型の[24 新田開発]がすすむ→耕地面接の拡大へ
↓ ([25 粗放農業]化)
町人の富裕化などによりしだいに[26 町人請負]新田なども増加
 - 2)中期…農民主導・[27 反当収量]拡大の方向へ([28 労働集約]化)
・農具の改良…備中鋏、[29 千歯扱]、唐箕

・農業知識の進歩…宮崎安貞[30 農業全書]など農書の出版

・肥料の使用…刈敷・下肥などとともに、金肥の使用…[31 干鰯]・油粕・粕の使用
(=[32 購入肥料])

・商品作物の生産…[33 木綿]・[34 菜種]・桑・麻など
特産物 [35 紅花](出羽)、[36 茶](山城・駿河)、[37 藍](阿波)など

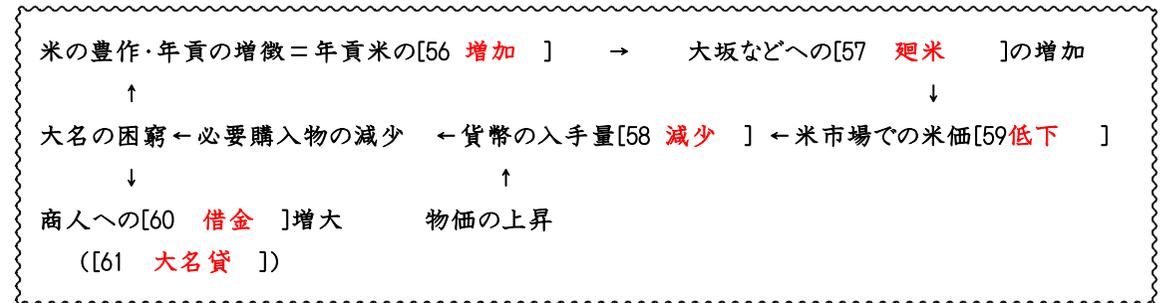
↓
農村の38 米作中心の自給自足 体制の崩壊、[39 貨幣]経済の農村への浸透

b. 社会の変容

- ①18世紀…40 売ること を目的とする[41 商業的]農業の展開
=商品の[42 相場]、[43 作の吉凶]、藩の政策([44 専売]制導入など)でリスク大
↓
農民の[45 階層分化]すすむ→成功したもの…土地を[46 集積][47 経営を拡大]。
→経営に失敗→土地を[48 失い]、[49 貸稼ぎ]や[50 小作]に
水呑に転落、村を捨て都会へ

幕藩体制の基礎となっていた[51 本百姓]が疲弊・解体される
↓
これまでの52 本百姓から年貢米を得る 体制は困難となる
→にもかかわらず、幕府や藩は[53 年貢米]の増徴をはかる。→[54 一揆]などの増加

②「[55 米]」中心の経済の矛盾激化



③大名の困窮への対応

- [62 年貢の増徴]
特産物への[63 専売制]の導入 = 特権商人と結び、64 農民から安く買ったたく
大商人([65 蔵元][66 掛屋]等)からの借金
[67 俸禄削減](半知)…藩士への俸禄猶予・削減
[68 藩札](藩が発行する[69 紙幣])発行

④武士の没落 [70 町人]を養子に迎え[71 御家人]の株を売るものも発生。(町人の武士化)